

H25 年度 富良野市観光経済調査 概要版

1. 調査目的

- ① 「観光客を対象とした消費実態調査」による年間観光消費額
- ② 「市内の観光事業所を対象とした実態調査」による「観光関連産業および市内産業構造の把握を夏・冬に実施し、過去2回（H12・18）の調査結果との経年変化を分析し、現状把握と今後の動向を捉え、今後の観光振興、まちづくりの方向性について検討を行う基礎資料とすることを目的

2. 観光消費実態調査

	H12	H18	H25
宿泊客一人当たり 平均消費額（円／人）	27,523	29,897	28,950円
日帰り客一人当たり 平均消費額（円／人）	7,568	7,748	8,333円
年間観光消費額	27,239,449千円	28,058,609千円	24,025,591千円

※富良野市観光客入込数に、観光客一人当たり平均消費金額を乗じて、市内年間消費額を推定

3. 観光経済事業所調査

	H12	H18	H25
① 常用従業員数	10.2人	8.5人	9.2人
② ※観光関連従業員数	6.3人	8.2人	5.2人
③ ※一般事業所従業員数	15.2人	8.8人	13.3人
④ 市内消費率	0.828	0.827	0.688
⑤ 付加価値率	7,013,999千円	8,762,380千円	7,583,678千円

4. 観光経済波及効果

	H12	H18	H25
⑥ 観光関連産業総売上高	292億円	301億円	178億円
⑦ 観光関連産業の市内所得	70億円	88億円	76億円
⑧ 原材料購入による波及効果	95億円	148億円	117億円
⑨ 観光のみに専従とみた就業者数	1,822人	3,231人	3,408人

※冬季の観光入込の減少が影響

5. 富良野観光経済振興の課題と方向

- ・ 通年型観光地を目指す
- ・ 観光客を通年で増やす取り組み（冬の観光入込減が消費額に影響）
- ・ 移住・一時居住の意識が高く長期滞在者に向けた過ごし方の提案
- ・ 原材料・営業経費・人件費の支払先が富良野市内は減少し、富良野圏域では増加
- ・ 一方で就業者数から見ても観光産業の比重は高く、経済波及効果を高めるためにも域内循環を高める広域連携は必要
- ・ リピーター獲得による滞在プログラムの充実